

75

75

ケーキを半ぶんずつにわける。

76

76

いっかい、にかいと縄をまわして縄跳び。

77

77

ちよくせんがゆがんでしまい、ひきなおす。

78

78

画用しは、えかきに使うしろいかみ。

79

79

とおくまでえんそくにいきました。

79	78	77	76	75
遠	紙	直	回	分
遠くまで遠足に行きました。	画用紙は、絵かき <sup>つか</sup> に使う白い紙。	直線がゆがんでしまい、引き直す。	一回、二回と縄 <sup>なわ</sup> を回して縄跳 <sup>なわと</sup> び。	ケーキを半分ずつに分ける。

80


80

君<sup>きみ</sup>はいち<sup>ばん</sup>のとも<sup>だち</sup>達、親<sup>しん</sup>ゆうだ。

81


81

あさがきた。きょうもちょうしょくおいしいな。

82


82

かお<sup>あ</sup>を洗<sup>あら</sup>うことを洗<sup>せん</sup>がんという。

83


83

まいとし、はるにはツバメがくる。  
(＊「まいねん」とも読<sup>よ</sup>む)

84


84

布<sup>ふ</sup>団<sup>どん</sup>をにつこうにあてる。

84	83	82	81	80
当	毎	顔	朝	友
布団 <small>ふとん</small> を日光に当てる。	毎年、春にはツバメが来る。	顔を洗 <small>あら</small> うことを洗顔 <small>せん</small> という。	朝が来た。今日も朝食おいしいな。	君 <small>きみ</small> は一番の友達 <small>だち</small> 、親友だ。

85


85

やすみ時<sup>じ</sup>かんのあいだにトイレにいく。

86


86

おひる<sup>ひる</sup>だな。きょうのちゅうしょく、カレーだよ。

87


87

このケーキ、私<sup>わたし</sup>とあねではんぶんこ。

88


88

あたらしいでんちをみせてかう。

89


89

いえのそとにでかけることが「がいしゅつ」。

89	88	87	86	85
外	電	半	昼	間
家の外に出かけることが「外出」。	新しい電池を店で買う。	このケーキ、私 <small>わたし</small> と姉で半分こ。	お昼だな。今日の昼食、カレーだよ。	休み時間の間にトイレに行く。

たしかめ

19

なまえ  
名前

90

90

おんがくの時<sup>じ</sup>かんはたのしくうたいましょう。

91

91

両<sup>りょう</sup>しんとかおがそっくり。おやこだね。

92

92

おとうさんは、ちちおやともいう。

93

93

ははおやを「おかあさん」と呼<sup>よ</sup>んでいる。

94

94

僕<sup>ぼく</sup>のあにはごねんせいだ。

94	93	92	91	90
僕 <sup>ぼく</sup> の あには ごねんせいだ。	ははおやを 「おかあさん」と 呼 <sup>よ</sup> んでいる。	おとうさんは、ちちおや ともいう。	両 <sup>りょう</sup> しんと かおが そっくり。おやこだね。	おんがくの 時 <sup>じ</sup> かんは たのしく うたいましょう。



95

95

おとうとはとてもげんきだ。

96

96

きょうのごぜんちゅうはあめだった。

97

97

よるになり、じゅうごやのつきがでた。

98

98

好き<sup>す</sup>なかもくは、おんがく<sup>す</sup>です。

99

99

にほんのとなりのくにはちゅうごくだ。

99	99	97	96	95
国	科	夜	午	弟
日本 <small>の</small> となりの国は中国だ。	好きな科目 <small>は</small> 、音楽 <small>です</small> 。	夜になり、十五夜の月が出た。	今日の午前中は雨だった。	弟はとても元気だ。

たしかめ

21

なまえ  
名前

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

がいこくごをしようがっこうから習う。

さんすうの計算なんか簡単だ。

きのうでせいかつしているリス。

くふうして、かみこ工作をやってみた。

じぶんのことはじぶんでしよう。

104	103	102	101	100
自	工	活	算	語
自分のことは自分でしよう。	工夫 <small>ふう</small> して、紙工作をやってみた。	木の上で生活しているリス。	算数の計算なんか簡単 <small>かんたん</small> だ。	外国語を小学校から習 <small>なら</small> う。

105


105

しちじはん、もうがつこうへいくときだ

106


106

いえにかえることをき宅たくという。

107


107

なかにはなにがはいつているかな。

108


108

答えこたが全部ぜんぶあつていた。ごう格かくだ。

109


109

やまからさとへおりてきたサル。

109	108	107	106	105
里	合	何	帰	時
山から里へ下りてきたサル。	答えが全部合っていた。合格だ。	中には何が入っているかな。	家に帰ることを帰宅という。	七時半、もう学校へ行く時だ。

1 1 0

110

いっしゅうかんは  
なのかです。

1 1 1

111

きょうの  
テレビばんぐみを  
調べる。

1 1 2

112

映<sup>えい</sup>がを  
みる  
計<sup>けい</sup>かくを  
たてる。

1 1 3

113

ひのよう<sup>じん</sup>ぶ、  
マッチ  
いっ<sup>じ</sup>ぽん、  
か事<sup>じ</sup>の  
もと。

1 1 4

114

しかくけい、  
かどを  
きつたら  
はちかくけい。

114	113	112	111	110
角	用	画	番	週
四角形、角を切ったら八角形。	火の用心、マッチ一本、火事の元。	映画を見る計画を立てる。	今日のテレビ番組を調べる。	一週間は七日です。



115


116


道と道、まじわるところがこう差てん。

117


照めいをつけたら部屋があかるくなった。

118


ほしぞらだ。とせいやきんせいがよくみえる。

119


とうきようは、おお阪よりひがしのほうにある。

120

きよう都にはたくさんの寺がある。

119	118	117	116	115
京	東	星	明	交
京都 <sup>と</sup> にはたくさんの寺がある。	東京は、大阪 <sup>さか</sup> より東の方にある。	星空だ。土星や金星がよく見える。	照明 <sup>しょうめい</sup> をつけたら部屋 <sup>へや</sup> が明るくなった。	道と道、交 <sup>ま</sup> わるところが交差点 <sup>さつてん</sup> 。

124

1 2 4

細<sup>ほそ</sup>いみちからおおきなどう路<sup>ろ</sup>にでる。

123

1 2 3

でんちがきれてと計<sup>けい</sup>がとまる。

122

1 2 2

にほんよりにしにあるせい洋<sup>よう</sup>のくに。

121

1 2 1

きんいろに輝<sup>かがや</sup>くおてら、きん閣<sup>かく</sup>じ。

120

1 2 0

ふるいじ代<sup>だい</sup>をこ代<sup>だい</sup>という。

たしかめ

25

なまえ  
名前

1 2 4	1 2 3	1 2 2	1 2 1	1 2 0
道	止	西	寺	古
細い道から大きな道路 <small>ろ</small> に出る。	電池が切れて時計が止まる。	日本より西にある西洋 <small>よう</small> の国。	金色に輝 <small>かがや</small> くお寺、金閣 <small>かく</small> 寺。	古い時代を古代 <small>だい</small> という。

1 2 5

125

のやまに|いる|と|りを|やちよう|という。

1 2 6

126

は|ら|っ|ぱ|を|は|だ|し|で|歩<sup>ある</sup>く|げん|始<sup>し</sup>じん。

1 2 7

127

す|べ|り|だ|い、|う|え|か|ら|し|た|ま|で|い|っ|ち|よ|く|せん。

1 2 8

128

ふ|う|せ|ん|を|ふ|ね|の|う|え|か|ら|飛<sup>と</sup>ば|した。

1 2 9

129

ぜ|ひ|た|べ|て。|お|い|し|い|お|こ|め|の|近<sup>おうみ</sup>江|まい。

1 2 9	1 2 8	1 2 7	1 2 6	1 2 5
米	船	台	原	野
ぜひ食 <sub>く</sub> べて。おいしいお米 <sub>こめ</sub> の近 <sub>お</sub> 江 <sub>う</sub> 米 <sub>み</sub> 。	風船 <sub>ふうせん</sub> を船 <sub>ふね</sub> の上 <sub>うへ</sub> から飛 <sub>と</sub> ばした。	すべり台 <sub>すべりだい</sub> 、上 <sub>うへ</sub> から下 <sub>した</sub> まで一 <sub>ひと</sub> 直 <sub>ちく</sub> 線 <sub>せん</sub> 。	原 <sub>はら</sub> つぱをはだして歩 <sub>ある</sub> く原 <sub>はら</sub> 始 <sub>し</sub> 人 <sub>じん</sub> 。	野 <sub>の</sub> 山 <sub>さん</sub> に <sub>に</sub> い <sub>い</sub> る <sub>る</sub> 鳥 <sub>とり</sub> を <sub>を</sub> 野 <sub>の</sub> 鳥 <sub>どり</sub> とい <sub>い</sub> う <sub>う</sub> 。

134

1 3 4

やまのうえからたに底をみる。

133

1 3 3

こづかいがすくない。すこし増やして。

132

1 3 2

りか室は、さんねんせいから使います。

131

1 3 1

ケーキをつくったことをさくぶんにかく。

130

1 3 0

さわやかなあきばれ、しゅうぶんのひ。

たしかめ

27

なまえ  
名前

1 3 4	1 3 3	1 3 2	1 3 1	1 3 0
谷	少	理	作	秋
山の上から谷底 <small>そこ</small> を見る。	こづかいが少 <small>すく</small> ない。少 <small>すく</small> し増 <small>ふ</small> やして。	理科室は、三年生から使 <small>つか</small> います。	ケーキを作ったことを作文に書 <small>か</small> く。	さわやかな秋晴れ、秋分の日。



139

1 3 9

熊<sup>くま</sup>は、ふゆのあいだはとう眠<sup>みん</sup>している。

138

1 3 8

こころばそくても、みんながいれば安<sup>あん</sup>しんだ。

137

1 3 7

そらでは雷<sup>らい</sup>めい、とりもなきやむ嵐<sup>あらし</sup>のよる。

136

1 3 6

ひやくにんいっしゆをやりすぎてくびが痛<sup>いた</sup>い。

135

1 3 5

この飾<sup>かざ</sup>り、こまかいさいくがしてあるね。

たしかめ

28

なまえ  
名前

139	138	137	136	135
冬	心	鳴	首	細
熊は、冬の間は冬眠 <small>くま</small> している。	心細くても、みんながいれば安心 <small>あん</small> だ。	空では雷鳴 <small>らい</small> 、鳥も鳴き止む嵐 <small>あらし</small> の夜。	百人一首をやりすぎて首 <small>いた</small> が痛い。	この飾り、細かい細工 <small>かざ</small> がしてあるね。

144

1 4 4

し  
ち  
ょ  
う  
さ  
ん  
の  
お  
は  
な  
し  
を  
き  
く。

143

1 4 3

ち  
球<sup>きゅう</sup>  
は  
あ  
お  
く  
て  
ま  
る  
い。

142

1 4 2

ち  
や  
い  
ろ  
と  
く  
ろ  
と  
し  
ろ  
の  
み  
け  
猫<sup>ねこ</sup>。

141

1 4 1

む  
ぎ  
ち  
や  
を  
飲<sup>の</sup>  
ん  
で  
す  
こ  
し  
や  
す  
も  
う。

140

1 4 0

た  
い  
ふ  
う  
が  
ち  
か  
づ  
き  
あ  
ま  
ど  
を  
閉<sup>し</sup>  
め  
る。

た  
し  
か  
め

29

な  
ま  
え  
名  
前

1 4 4	1 4 3	1 4 2	1 4 1	1 4 0
市	地	茶	麦	戸
市長さんのお話を聞く。	地球は青くて丸い。	茶色と黒と白の三毛猫。	麦茶を飲んで少し休もう。	台風が近づき雨戸を閉める。

149

もんのまえにかど松を飾る。

149


148

こどもは遊びのてんさいだ。

148


147

いちにちにあるくほすうはいちまんぽ。

147


146

ただしいこたえをせいとうという。

146


145

運動じょうの砂ばで遊ぶいちねんせい。

145


たしかめ

30

なまえ  
名前

149	148	147	146	145
門	才	歩	答	場
門の前 <small>まへ</small> に門松 <small>かまつ</small> を飾 <small>かざ</small> る。	子どもは遊 <small>あそ</small> びの天才だ。	一日に歩く歩数は一万歩。	正しい答えを正答という。	運動場 <small>うんどう</small> の砂場 <small>すな</small> で遊 <small>あそ</small> ぶ一年生。

た  
し  
か  
め

31

なまえ  
名前

1 5 0

150

バイオリンのゆみは  
うまのけでつくる。

1 5 1

151

やが<sup>まと</sup>的にあたる。

1 5 2

152

とけい<sup>つか</sup>を使って  
じかんをはかる。

1 5 3

153

きょうしつで  
静かに<sup>しず</sup>  
じ習<sup>しゅう</sup>をした。

1 5 4

154

うまに<sup>なら</sup>とう、  
並んで  
はしやをひいている。

1 5 4	1 5 3	1 5 2	1 5 1	1 5 0
馬	室	計	矢	弓
馬二頭、並 <small>なら</small> んで馬車を引いている。	教室で静 <small>しず</small> かに自習 <small>しゅう</small> をした。	時計を使 <small>つか</small> って時間を計る。	矢が <small>ま</small> 的 <small>と</small> に当たる。	バイオリンの弓は馬の毛で作る。



155

156

157

158

159

160

にほんのいちばんきたは  
ほっかいどう。

おうみ  
近江ぎゅう、うしのにくでは  
さいきゆう  
最こう級。

じよ  
助そうからいつきに  
ぜん  
全りよくではしりきった。

しんぶんもほんも  
うっている  
えき  
駅のばいてん。

よわい  
動物を  
たべる  
「じゃくにく  
きようしよく」。

あい  
相ては  
つよいぞ、  
てき  
敵だ。

160	159	158	157	156	155
強	弱	売	走	牛	北
相手 <small>あ</small> いは強 <small>い</small> ぞ、強敵 <small>てき</small> だ。	弱 <small>よ</small> い動物 <small>どうぶつ</small> を食 <small>く</small> べる「弱肉強食」。	新聞も本も売 <small>う</small> っている駅 <small>えき</small> の売店。	助走 <small>じよ</small> から一 <small>いっ</small> 気に全 <small>ぜん</small> 力で走 <small>はし</small> り切 <small>き</small> った。	近江牛 <small>おうみ</small> 、牛の肉 <small>にく</small> では最高級 <small>さいきゅう</small> 。	日本 <small>にっぽん</small> の一番北は北海道。